



『花の結び目』出版記念パーティ（姫路にて、1981年）

# 時実新子展

# 追想展



### ■交通のご案内

JR岡山駅より、徒歩15分、タクシー3分、バスは岡電バス（妙善寺・三野公園）行／宇野バス・美作方面行で「南方交番前」下車徒歩3分

車／文学館前の道路は午前東行・午後西行の一方通行

〒700-0807 岡山市北区南方3-5-35  
TEL:086-223-7411 FAX:086-223-7418  
<http://www.kibiji.or.jp>

2009年5月2日 [土] - 7月26日 [日]

- 開館／9時30分～17時（入館は16時30分まで）
- 休館日／毎週月曜日（祝日は開館）・祝日の翌日
- 入館料／一般…400円 大・高生…300円 中・小生…200円

後援：中国銀行

（総企第12号・H21.5現在・H21.7.24期限）

同時開催／常設企画展「吉備路近代文学の7人展」

# 時実新子 追想展

2009年5月2日 [土] -  
7月26日 [日]

岡山県東部を流れる吉井川の河口の町で生まれ育つ。5歳のとき、河口のはるか彼方の瀬戸内海の沖合いに忽然と現れた「巨(おお)きな力」を感受。以来、その力に守られ、導かれ、生かされているとを感じる。25歳で川柳と出会い、川柳作家としての才能を発揮。常に「わたくし」発の作品を生み出し、——妻として、母として、女として——「五・七・五」の十七音の中で人間愛を詠みつけ、「新子の世界」を作り上げた。

本展では、川柳作家・エッセイスト“時実新子”を偲び、「追想展」を開催する運びとなりました。原稿、書、愛用品、写真、著書など貴重な資料をもとに、時実新子の作品と人生を展示紹介いたします。

## 〔略歴〕

- 1929(昭和4) 岡山県上道郡九幡村(現・岡山市)に生まれる。
- 1935(昭和10) 村立開成尋常小学校入学。
- 1942(昭和17) 岡山県立西大寺高等女学校入学。
- 1946(昭和21) 結婚、一男一女を授かる。
- 1954(昭和29) 神戸新聞川柳壇に初投稿、初入選。
- 1955(昭和30) 「川柳ふあうすとひめじの会」に初参加。雅号を「新子」とする。
- 1963(昭和38) 第一句集『新子』を自費出版。
- 1975(昭和50) 個人季刊誌「川柳展望」創刊。
- 1976(昭和51) 三條東洋樹賞受賞。
- 1981(昭和56) 姫路市民文化賞受賞。
- 1987(昭和62) 句集『有夫恋』(朝日新聞社刊)がベストセラーとなる。
- 1995(平成7) 神戸新聞文化賞受賞。
- 1996(平成8) 「時実新子の月刊川柳大学」創刊。
- 2001(平成13) 神戸市文化賞受賞。
- 2007(平成19) 永眠。享年78歳。



撮影：松嶋 惇



吉井川(平成21年2月撮影)



短冊手に揃い手からこぼして吉井川

1. 『花の結び目』  
(昭和56年・たいまつ社)
2. 『有夫恋』  
(昭和62年・朝日新聞社)
3. 『時実新子全句集1955~1998』  
(平成11年・大巧社)
4. 『悪女の玉手箱』  
(平成14年・実業之日本社)
5. 『白い花散った』  
(平成15年・NHK出版)



1



2



3



4



5



6



7



8

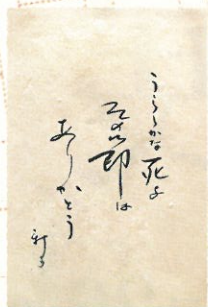


9

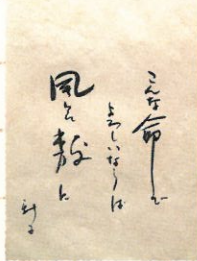
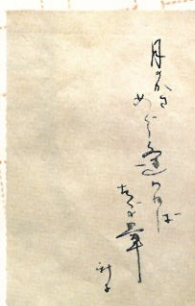


10

6. 小引き出し
7. 文箱、鉛筆等
8. ランプ
9. 眼鏡
10. 小銭入れ、ペン入れ



「新子百句」(昭和58年)より



青森県下北郡川内町(現・むつ市)に文学碑建立(平成6年)  
「君は日の子 われは月の子 顔上げよ」

時実新子用箋

20×20